

南砺市道路施設維持修繕5箇年計画
2023年度～2027年度

令和5年3月

南 砺 市

目 次

第1章 維持修繕計画の目的

1-1	目 的	3
1-2	本計画の位置付け	3
1-3	南砺市の道路施設の現状	4
1-4	道路維持管理・修繕・更新工事費等の推移	5

第2章 維持管理の基本方針

2-1	管理区分	6
2-2	点検の体系	6
2-3	点検の種類と頻度	7

第3章 施設ごとの維持管理方針

3-1	舗 装	8
3-2	橋 梁	9
3-3	トンネル・スノーシェッド・大型カルバート	10
3-4	道路附属物	10

第4章 5箇年事業内容

第5章 今後の取り組み

(資料編)

・ 道路施設維持修繕計画実施路線	15
・ A 劣化評価・評価基準	
A-1 舗装の劣化評価	16
A-2 橋梁の健全度・対策区分	18
A-3 トンネル・スノーシェッド・大型カルバート	
道路附属物の健全度・対策区分	19
・ B 重点路線	
B-1 幹線道路及び観光施設へのアクセス道路	20
B-2 橋梁・桁道橋・桁線橋	21
B-3 トンネル	22
B-4 スノーシェッド	23
B-5 スノーキーパー	24
B-6 横断歩道橋	24
B-7 通行止可能施設	24

第 1 章 維持修繕計画の目的

1－1 目的

令和 4 年 4 月 1 日現在における市の管理する道路延長は約 1, 3 4 0 k m で、そのうち舗装整備した道路は約 1, 0 8 4 k m (8 1 %) となっています。

道路は供用開始後、気象条件や交通荷重などの外的要因により劣化が進むため、市民の安全で安心な通行を確保するためには、日頃よりパトロールを実施し、路面状況を把握し、適切な維持管理を行う必要があります。

本市における道路整備は、昭和 4 0 年代の高度成長期から道路改良が促進され橋梁の設置や舗装化が進みました。また、農村地域については近代化事業(ほ場整備等)に併せて整備されてきました。

その後 4 0 ～ 5 0 年以上が経過し、道路施設の経年劣化に伴う維持管理費用の増大、かつ修繕時期や費用の集中が想定されます。しかしながら近年の厳しい財政状況では膨大な予算の確保は困難であることから、効率的で効果的な維持管理が求められており、さらなるコストの縮減、事業費の平準化を図り、持続可能な道路施設の維持管理を行うため本計画を策定するものです。

1－2 本計画の位置付け

本計画は、本市が定めた「公共施設等総合管理計画」の考え方にに基づき、道路施設の維持管理方法について取りまとめています。

1－3 南砺市の道路施設の現状

南砺市は、平成16年11月1日に8町村が合併し誕生しました。合併時点で町道、村道を市道路線認定し、道路附属施設も含め管理を行っています。

表1－3－1 市道の延長

等級分類	延長 (km)	内 訳 (km)		備 考
		舗装	未舗装	
市道 1 級	240	223	17	
2 級	180	142	38	
その他	920	719	201	
計	1,340	1,084	256	

表1－3－2 道路橋梁

橋長分類	施設 (橋数)	備 考
15m以上	202	富山県橋梁点検マニュアル レベルⅠ
2～15m未満	621	〃 マニュアル レベルⅡ
計	823	道路台帳橋梁現況総括表

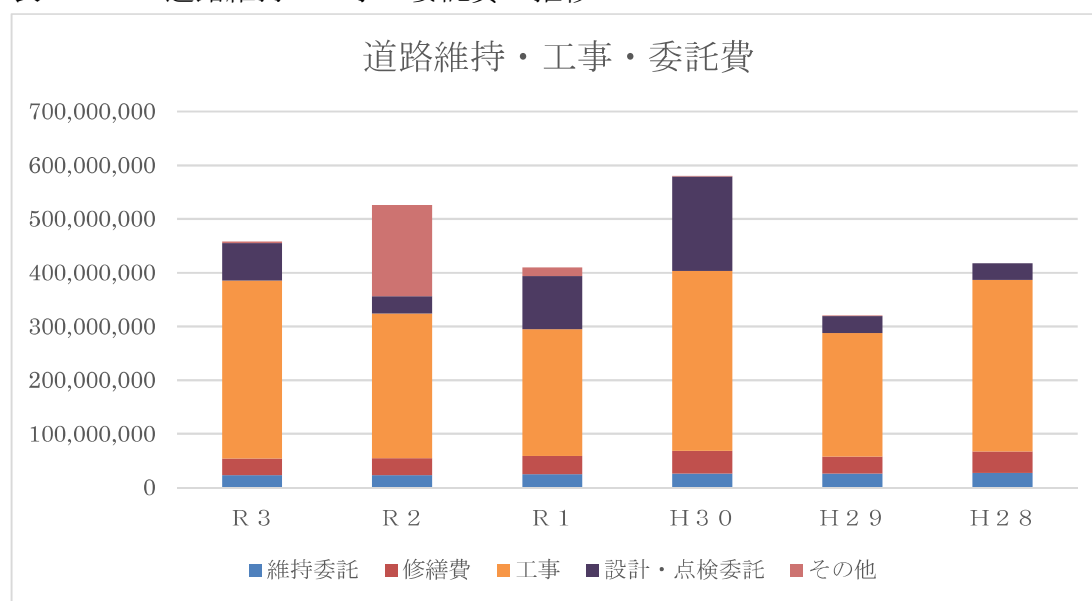
表1－3－3 道路附属施設

施設分類	施設数	単位	備 考
トンネル	11	箇所	内6箇所通行止め
スノーシェッド	18	箇所	山の神線 形状別でカウント
大型ボックス カルバート	2	箇所	市道坂上上百瀬線（坂上地内） 市道菅沼田下線（田下地内）
横断歩道橋	1	箇所	市道寺家高儀線（福野小前）
案内標識	250	基	警戒標識除く
道路情報板	1	箇所	山の神トンネル施設 （平＋利賀＝2基、通報設備）
道路照明灯	460	基	連続照明は1基とする。
道路反射鏡	600	面	概数 300自治会×2基
防護柵	約50	Km	

1－4 道路維持管理・修繕・更新工事費等の推移

道路維持管理・修繕・更新工事費等については、社会資本整備総合交付金や道路メンテナンス事業費補助などを財源とする施設更新工事、長寿命化工事、法定点検業務、一般財源による植栽管理や修繕工事などの費用を計上しています。年度によって増減はあるものの、総じて増加傾向にあります。特に5年に1度の法定点検にかかる費用において年度によるばらつきが大きいいため、点検費用の平準化を図る必要があります。

表1－4 道路維持・工事・委託費の推移



第2章 維持管理の基本方針

2-1 管理区分

限られた予算の中で、施設の老朽化に対し適切に対応していくために、施設の特性、量、利用状況等から道路施設の管理区分を4型式に分類します。

表2-1 南砺市の道路施設の管理区分

	管理区分	定 義
計画的 対応	予防保全型	定期的な点検・パトロールにより施設状態を把握し、損傷が軽微な段階で小規模な補修を行う等、予防的に適切な対策を実施します。
	事後保全型	定期的な点検・パトロールにより施設状態を把握し、劣化損傷がある程度進行した（限界水準を下回る前の）段階で補修・更新等の対策を実施します。
	時間管理型	施設の状態や機能の状況によらず時間の経過で更新・交換を実施します。
監視的 対応	巡回監視型	パトロールにより施設状態を把握し、施設の限界水準を下回り、機能を発揮できなくなった状態を確認した段階で更新等を実施します。

2-2 点検の体系

道路施設の点検は、パトロール、定期点検、緊急点検等に分類でき、施設の種類や管理区分によって、実施する点検は異なります。

道路案内標識など大規模および中規模施設に分類されるものは、管理区分は事後保全型であり、定期点検を実施します。また、路側式の小型標識などの小規模施設に分類されるものは、管理区分は巡回監視型であり、パトロールを実施します。市における道路施設の点検の種類・体系を表2-2に示します。

表 2－2 点検の種類・体系

点検の種類		内 容
パトロール (巡回監視)		ひび割れ、支柱の傾きや道路施設の機能障害などは、道路パトロールカーや近接目視により点検します。 また、職員の現場業務の際に異常がないかを把握します。
清掃・小修繕業務		排水桝等の清掃時や道路穴埋めなど簡易な修繕時に、遠望目視により施設の状態を観察します。
市民通報・調査		市民通報等により、施設の状態を把握します。
定期点検	標準点検	全ての部材に着目し、近接目視により点検します。
	簡易点検	全ての部材に着目し、外観目視により点検します。
緊急点検		地震・台風等により異常が生じる（生じた）可能性がある場合、状況に応じて実施します。

2－3 点検の種類と頻度

管理する道路施設を下記のように大規模施設、中規模施設、小規模施設の 3 種類ごとに頻度を分類します。

表 2－3 点検の種類と頻度

施設区分	施設例示	管理区分	頻 度	備 考
大 規 模 施 設	橋梁 トンネル	予防保全型	5 年に 1 回 標準点検	※法令点検
	横断歩道橋、門型の案内標識・道路情報板	事後保全型	5 年に 1 回 標準点検	※法定点検
中 規 模 施 設	F・逆 L・T 型及び共架式の標識・情報板、C・Y・直柱型の道路照明灯など	事後保全型	10 年に 1 回 標準点検 必要に応じて 5 年目簡易点検	
小 規 模 施 設	小型標識（路側式標識）・情報板、道路反射鏡、防護柵など	巡回監視型	随時	

※法令点検：平成 26 年 7 月 1 日施行

省令（道路の維持又は修繕に関する技術的基準等）及び告示（トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示）

第3章 施設ごとの維持管理方針

3-1 舗装

管理方法：事後保全型

(1) 舗装の維持管理の基本的な考え方

舗装の維持管理にあたっては、舗装点検要領（平成28年10月国土交通省道路局）を参考に、以下の基準によって市道を分類B、C、及びDに分類して管理することとします。各道路分類に該当する道路種別を表3-1-1に示します。

表3-1-1 管理道路の分類

分類	対象道路
分類B	・1級市道及び2級市道のうち、地域内外の交通に果たす役割を考慮し、重要性が高い路線
分類C	・上記以外の1級市道及び2級市道 ・その他市道のうち、過去に路面性状調査を実施した道路
分類D	・上記以外の道路

※舗装点検要領 国土交通省道路局（平成28年10月）より

(2) 管理基準

分類B、Cに該当する主な幹線道路の舗装の管理基準には、路面の「ひび割れ率」「わだち掘れ量」「平坦性」から計算される舗装の維持管理指数MC I（Maintenance Control Index）を使用することとします。舗装管理基準値を表3-1-2に示します。

表3-1-2 管理基準値

MC I 値	維持修繕基準
5 超	望ましい管理基準
5 以下	修繕を行うことが望ましい
4 以下	修繕が必要
3 以下	早急に修繕が必要

(3) 点検方法・点検頻度

道路分類ごとの点検方法と点検頻度の一覧を表 3-1-3 に示します。

表 3-1-3 点検方法・点検頻度

分類	点検方法	点検頻度
分類B	路面性状測定装置等による	10年に1度程度
分類C	目視を基本に必要な応じて機器を使用	10年に1度程度
分類D	道路パトロールによる路面状況の把握	随時

※1:「機器」とは、路面性状測定装置等の機器を指す

※2:「目視」とは、画像撮影車を用いた目視調査を含む

(4) 対策の優先順位（補修計画の方針）

舗装損傷状況、路線の重要性、交通量等を考慮し補修の優先順位を決定します。対策の優先順位は、以下のような考え方で設定します。

① 舗装の損傷状況

路線の平均MC I : MC I 値が小さく、早急に修繕が必要な路線を優先します。

② 道路の重要性

管理道路の分類: 交通量や重要度から、管理道路をB, C, およびDに分類し、重要度が高い路線を優先します。

(5) その他の市道の舗装

路面性状調査を行わない生活道路や歩道舗装については、小規模な修繕や通行に影響が出るものは、速やかに補修を実施します。現在及び将来における維持補修の必要性の判断について、公平性や工事の効率化等を図るため、舗装の損傷状況等の調査項目と採点基準を設定し、補修の必要性・優先順位・時期を評価基準により判定し、計画的な補修工事を実施します。

3-2 橋 梁

管理方法：予防保全型

本市では、1980年代をピークに建設された橋梁が、橋梁の建設寿命（建設後50年）を経過し、今後、年々増加するため、従来の事後保全型維持管理を実施した場合、維持管理費の増大が懸念されます。

このため、橋梁の安全性・信頼性の確保、維持管理費用の縮減及び平準化等に向け、平成24年度に策定した「南砺市橋梁長寿命化修繕計画」（令和4年度修正）に基づき修繕工事を実施するとともに、5年に1度定期点検により状況を把握します。

3-3 トンネル、スノーシェッド、大型カルバート

管理方法：予防保全型

トンネル等は、橋梁と同様に道路の構成要素として重要構造物に位置づけられています。その老朽化は、利用等の安全面にも影響を及ぼすとともに、更新を行う際には、社会的・経済的影響が大きいことから原則として、予防保全型の維持管理を行います。

このため、施設の安全性・信頼性の確保、維持管理費用の縮減及び平準化等に向け、令和元年度に策定した「南砺市トンネル・スノーシェッド・大型カルバート長寿命化修繕計画」（令和4年度修正）に基づき修繕工事を実施するとともに、5年に1度定期点検により状況を把握します。

3-4 道路附属物

道路附属物における対策の重要度を評価する指標を設定します。

表3-4-1 道路附属物：重要度評価指標および重要度を高く評価する施設

評価指標	指標設定の視点に対する影響事項	重要度の評価指標	重要度を高く評価する施設
安全性	自動車および歩行者・自転車が多い路線の場合、修繕の遅れによる影響が出やすい	道路種別 通学路指定の有無	1・2級市道 通学路指定あり
ライフサイクルコスト	修繕の遅れにより、ライフサイクルコストが増大することは想定されにくいため、指標は設定しない	—	—
通行確保	大型支柱がある場合に、災害による倒壊時に通行の障害となる可能性がある	大型支柱の有無	大型支柱あり
快適性	修繕の遅れにより、快適性に影響が出ることは想定されにくいため、指標は設定しない	—	—

上記で設定した重要度の評価の区分と、施設の状態に関する指標から、対策の優先度を評価します。

表 3－4－2 道路附属物に関する優先度評価方法

重 要 度 に 関 す る 指 標	路 線	重要度	優先度高①→低⑥	
	1・2級市道かつ観光地路線 通学指定路線 大型支柱の附属物(照明灯、案内板、情報提供装置)	高 ↑	③	①
	1・2級市道又は観光地路線 通学指定路線 その他の附属物		④	②
	その他市道		⑥	⑤
		低	(取付物落下) (支柱倒壊) 良 悪	

①道路照明

管理方法：(灯具－事後保全型、柱－予防保全型)

道路照明は、夜間の交通事故防止及び道路交通の円滑化を図るために、主要な交差点や橋梁部の約460箇所に設置しています。

平成24年度には、灯具及び柱について点検を実施し、不具合があるものについては撤去・更新を実施しました。前回の点検から10年が経過したことから、今計画期間中に再度点検を行い、健全度の把握に努め、必要箇所について更新を実施します。また、LED化を進め長寿命化及び電気代の低減を図ります。

②大型標識

管理方法：(予防保全型)

当市が管理する大型標識は、令和3年度末現在、約250基が設置されています。平成24年度には、点検を実施し、不具合があるものについては撤去・更新を実施しました。早期に大規模修繕を必要とする標識はありませんでしたが、将来、柱の倒壊や標識板金具の補修が必要となります。前回の点検から10年が経過したことから、今計画期間中に再度点検を行い、健全度の把握に努め、不要な標識の廃止を含めた、維持修繕を行います。

③ 小型標識・道路反射鏡 (カーブミラー)

管理方法：巡回監視型

小型標識は、主に通学路やカーブ等の警戒の必要箇所を知らせる標識です。また、カーブミラーは主に自動車等に係る交通事故の抑止を目的として、見通しの悪い交差点や視距の確保が難しいカーブ等に設置しています。道路パトロールや自治会などから不具合など報告があれば速やかに補修又は撤去を行います。

④ 街路樹

街路樹は、日常において緑を感じられる貴重な緑の資源です。夏には木陰をつくり人々に快適な歩行空間を提供しています。また、街並みを統一して沿道の景観を向上させる役割も果たしています。

しかし、落葉や害虫・鳥など苦情が寄せられているほか、樹幹の肥大化による縁石の押し出しや歩道舗装の破損も起こっています。このことから地域の理解が得られたものについては、撤去や別の樹種への植え替えを行います。

第4章 5箇年事業内容

事業内容

工種	内 容	数 量	単位	備 考
橋 梁	点検（15m以上）	202	橋	5年毎
	〃（15m以下）	621	橋	5年毎
	修 繕	15	橋	長寿命化修繕計画に基づき実施
舗 装	路面性状調査	50,000	m	10年に1度程度
	打換え オーバーレイ	12,500	m	
トンネル	点 検	5	箇所	5年毎
	修 繕	2	箇所	長寿命化修繕計画に基づき実施
その他重要 構造物	点 検	20	箇所	大型カルバート、スノーシェット [※] 5年毎
	修 繕	3	箇所	長寿命化修繕計画に基づき実施
案内標識	点 検	250	基	10年に1度程度
	修 繕	—	箇所	点検結果に基づき実施
照 明	点 検	460	灯	10年に1度程度
	修 繕	—	箇所	点検結果に基づき実施
側 溝	改 修	1,800	m	
雪崩防止柵・ 落石防護柵	新 設	240	m	
転落防止柵	新設・更新	800	m	

第5章 今後の取り組み

今後も管理すべき施設の数が増加するものと推測され、対策に必要とする費用は膨大なものとなります。

現段階では、膨大な予算の確保は困難であることから、5・10年毎に定期点検を実施しながら実態を把握し、緊急性のある施設の修繕と損傷度合いや交通量などにより優先順位を付けて修繕を実施することにより、道路利用者や第三者への被害を防止し、安全安心な道路環境を確保します。

今後は予防保全型の維持管理を目指し、コストの縮減、平準化を図り、持続可能な維持管理体制を目指します。

今後の取り組み

計 画 年 度	計 画 内 容
本 計 画 令和5年度～9年度	◎定期点検 ◎緊急性の高い施設の修繕を実施 ◎優先順位を付けて修繕を実施 ◎コストの縮減・平準化
次期計画 令和10年度～14年度	◎定期点検 ◎定期点検の結果を踏まえて計画の見直し ◎コストの縮減・平準化 ◎実施状況を把握し、修繕の実施
持続可能な維持管理体制の構築・予防保全型の維持管理へ移行	

(資料編)

道路施設維持修繕計画実施路線 (案)

施設名	事業概要	箇所番号	地域	路線名	箇所	計画延長 (m)	工 法	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
舗 装	舗装打換 オーバーレイ L=12.5 km	1-1	福野	高堀太美山線	八塚～広安	840	切削オーバーレイ				●	●
		1-2	福野	高堀太美山線	年代～焼野	800	2層打換(片側車線)	●	●	●		
		1-3	福野	川除新本江線	野尻～本江	700	切削オーバーレイ		●	●		
		1-4	福野	三ツ屋竹林線	下吉江	400	1層打換				●	●
		1-5	福光	竹林宮後線	東殿～鍛冶	800	1層打換	●	●	●		
		1-6	福光	館市野沢線	土生新	260	1層打換	●	●			
		1-7	福光	高堀太美山線	荒木～小林	690	2層打換(片側車線)	●	●	●	●	●
		1-8	福光	糸谷国見線	糸谷新	800	1層打換	●			●	●
		1-9	井波	井波環状線	坪野～山見	400	2層打換	●	●			
		1-10	井波	清水明北市線	清水明～野能原	600	1層打換		●	●	●	
		1-11	井波	坂下開東寺線	北川	400	1層打換				●	●
		1-12	井波	南砺井波城端線	山見～北市	400	1層打換				●	●
		1-13	城端	立野原藁谷線	大鋸屋～藁谷	500	1層打換		●	●	●	●
		1-14	城端	西上赤坂線ほか	城端	400	1層打換	●	●	●	●	
		1-15	城端	末広千福線	金戸	600	1層打換			●	●	●
		1-16	井口	高宮川上中線ほか	井口	300	1層打換	●	●	●	●	●
		1-17	平	梨谷人食谷線ほか	梨谷	500	オーバーレイ	●	●	●	●	●
		1-18	平	下梨渡原線	下梨	300	1層打換	●	●	●	●	●
		1-19	平	山の神線	高草嶺	100	1層打換	●				
		1-20	上平	上梨小原線	田向・小原	300	1層打換			●	●	●
		1-21	上平	菅沼小瀬形線ほか	菅沼	200	1層打換	●	●	●	●	●
		1-22	利賀	下村線	利賀村下島	600	1層打換	●				
		1-23	利賀	中村線	中村	700	オーバーレイ		●	●		
		1-24	利賀	上百瀬東山線		780	オーバーレイ				●	●
		1-25	全	路面性状調査		50,000	調査業務			●		
橋 梁	橋梁補修15橋	2-1	全	補修工事		15橋	補修工事	●	●	●	●	●
	点検823橋	2-2	全	市内全域825橋		1式	橋梁点検	●	●	●	●	●
トンネル・シェット 大型ガード	補修5施設	3-1	全	補修工事		5施設	施設補修	●	●	●	●	●
	点検25施設	3-2	全	市内全域25施設		25施設	施設点検	●				●
側 溝	側溝改修 L=1.8 km	4-1	福野	野尻川原住宅1号線	野尻	1,000	側溝改修	●				
		4-2	福野	院林住宅1号線	院林	400	側溝改修				●	●
		4-3	井波	井波環状線	坪野	300	側溝改修	●				
		4-4	井波	山見3号線	山見	180	側溝改修		●	●		
雪崩防止柵 落石防護柵 転落防止柵	雪崩防止柵 L=180m	5-1	利賀	山の神線	利賀	120	雪崩防止柵	●	●	●	●	●
	転落防止柵 L=800m	5-2	平	祖山線	祖山	60	落石防護柵	●	●	●	●	
	落石防護柵 L=60m	5-3	上平	西赤尾小瀬形線	漆谷	60	雪崩防止柵					●
		5-4	城端	立野原藁谷線	大鋸屋～林道	800	ガードケーブル	●	●	●	●	●
その他修繕				道路照明、大型案内看板、ガードレール		1式		●	●	●	●	●

A 劣化評価・評価基準

A-1 舗装の劣化評価

・幹線道路

分類B、Cに該当する幹線道路の評価については、路面状況を定量的・客観的に把握するため、維持管理指数MCIを用いて評価を行います。MCI値は下記の4つの式から算出した値の中から最も小さい値を採用します。

表A-1-1 MCIの計算式

$MCI = 10 - 1.48C^{0.3} - 0.29D^{0.7} - 0.47\sigma^{0.2} \dots (1)$
$MCI_0 = 10 - 1.51C^{0.3} - 0.30D^{0.7} \dots (2)$
$MCI_1 = 10 - 2.23C^{0.3} \dots (3)$
$MCI_2 = 10 - 0.54D^{0.7} \dots (4)$
※C：ひびわれ率（%）、D：わだち掘れ量（mm）、 σ ：縦断凹凸量（mm）

測定したMCI値を基に、健全度の評価をⅠ～Ⅲの区分に分類し、補修の優先順位の指標とします。平成25～27年度に点検を行った路線のうち、分類Bはおよそ5割、分類Cはおよそ6割、分類Dはおよそ8割が区分Ⅲと診断されました。

表A-1-2 点検診断結果

道路の分類	合 計	区分Ⅰ (MCI 5.1以上) (m)	区分Ⅱ (MCI 4.1～5.0) (m)	区分Ⅲ (MCI 4以下) (m)
分類B	26,541	5,889	6,617	14,035
分類C	23,032	3,756	4,538	14,738
分類D	3,698	76	477	3,145
計	53,271	9,721	11,632	31,918

・生活道路

生活道路は100mの区間毎に「生活道路評価基準（5項目）」（表A-1-3）を基に検証し、総合評価（表A-1-4）を行います。

生活道路	幅が狭く（約6.5m未満）、大型車の通行が少ない道路。 舗装の経年劣化が少ない道路。
------	---

表A-1-3 生活道路評価基準（5項目）における4段階の評価基準

項 目		評価	基準	損傷レベル	目 安
ひび割れ	舗装面のひび割れ	0	健全	・ひび割れの発生が認められない	ひび割れなし
		1	軽度	・縦断方向に1本連続的に発生 ・評価単位区間内で片側の車輪通過部で複数本または亀甲状に発生	ひび割れ 1～20%程度
		2	中度	・ひび割れが左右両輪の通過部で発生し、かつ片側の車輪通過部では、ひび割れが縦横に派生するなど複数本発生 ・ひび割れが左右両輪の通過部で発生し、かつ片側の車輪通過部では、ひび割れが亀甲状に発生	ひび割れ 20～40%程度
		3	重度	・ひび割れが左右両輪の通過部でそれぞれ亀甲状に発生 ・ひび割れが車輪内全面にわたり亀甲状に発生	ひび割れ 40%以上
段差	施工ジョイント パッチング等	0	健全	良好な施工ジョイントなど（開きがない状態）	段差無し
		1	軽度	わずかに開きのあるジョイント	段差 1～15mm 程度
		2	中度	開きのあるジョイント	段差 15～30mm 程度
		3	重度	道路利用者（自動車、自転車、歩行者）が感じる段差、構造物等	段差 30mm 程度以上
穴	ポットホール、くぼみ、沈下	0	健全	穴や局部の沈下のない状態	穴なし
		1	軽度	小さな穴やわずかな局部沈下が生じている状態	穴 1～10cm 程度
		2	中度	局部的に沈下が生じている状態	穴 10～20cm 程度
		3	重度	道路利用者（自動車、自転車、歩行者）が感じる状態	穴 20cm 以上
わだち掘れ	わだち掘れ 横断凹凸等	0	健全	わだち掘れや沈下のない状態	わだち掘れ 無し
		1	軽度	わずかに凹凸によるわだち掘れが生じている状態	わだち掘れ量 1～20mm 程度
		2	中度	凹凸によるわだち掘れが生じている状態	わだち掘れ量 20～40mm 程度
		3	重度	凹凸により雨水が溜まる状態、道路利用者（自動車、自転車、歩行者）への水跳ねなど支障がある	わだち掘れ量 40mm 程度以上
平坦性	縦断凹凸 復旧跡等	0	健全	復旧跡やパッチングもない、平坦な状態	-
		1	軽度	復旧跡やパッチングがあっても、凹凸がない状態	
		2	中度	復旧やパッチングによる凹凸が生じているが、道路利用者（自動車、自転車、歩行者）には支障がない状態	
		3	重度	凹凸により、道路利用者（自動車、自転車、歩行者）に支障が生じる状態	

表A－1－4 総合評価

総合評価	基 準	修繕・補修
A (劣化小)	5つの評価項目のうち、損傷評価の最大が「健全0」または「軽度1」である区間	パトロールで状況変化確認
B (劣化中)	5つの評価項目のうち、損傷評価の最大が「中度2」が2項目ある区間	Cに移行しないように適宜補修を検討する
C (劣化大)	5つの評価項目のうち、損傷評価の最大が「重度3」が1項目ある区間	重度の区間については補修により対応
D (劣化大、修繕)	5つの評価項目のうち、損傷評価の最大が「重度3」が2項目ある区間	重度の区間については補修又は打替工法により対応
E (劣化大、要修繕)	5つの評価項目のうち、損傷評価の最大が「重度3」が3項目以上ある区間	重度の区間については打替工法又は路盤安定処理工法により対応

A－2 橋梁の健全度・対策区分

点検基準に準拠した健全度・対策区分の判定に従い、点検結果の診断を実施します。

表A－2－1 健全度及び対策区分の判定の内容

健全度区分		状 態
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

表 A-2-2 対策区分の判定の内容

健全度	対策区分	対策の内容
I	A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
	B	状況に応じて補修を行う必要がある。
II	C 1	予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
	M	維持工事に対応する必要がある。
III	C 2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
IV	E 1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
	E 2	その他、緊急対応の必要がある。
	S 1	詳細調査の必要がある。
	S 2	追跡調査の必要がある。

A-3 トンネル・スノーシェッド・大型カルバート・

道路附属物の健全度・対策区分

診断内容点検基準に準拠した健全度・対策区分の判定に従い、点検結果の診断を実施します。最新の点検基準に基づき、I～IVの4段階で健全度を区分していきます。

表 A-3-1 健全度及の判定の内容

健全度区分		状 態	措置の基本的な考え方
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態	監視や対策を行う必要がない
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態	状況に応じて、監視や対策を行うことが望ましい
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態	早期に監視や対策を行う必要がある
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態	緊急に対策を行う必要がある

B 重点施設

B－1 幹線道路及び観光施設へのアクセス道路

表B－1－1 幹線道路（分類B）

路線番号	路線名	地域	該当条件	備考
1	七ッ屋荒木町線	福野・福光	交通	
2	高堀太美山線	福野・福光	交通	緊急輸送道路
1 0	寺家高儀線	福野	交通	
1 2	二日町野尻川原 2号線	福野	交通	
1 8	二日町広安線	福野	交通	緊急輸送道路
2 5	井波環状線	井波	交通	
4 5	高畠城端栄町線	福光・城端	交通	
4 6	吉江中中ノ江線	福光	交通	
5 3	立野原蓑谷線	城端	交通	
7 0	石黒北山田線	福光	交通	
8 0	山の神線	平・利賀	交通	緊急輸送道路
2 0 9	二日町野尻川原 1号線	福野	交通	

表B－1－2 観光施設へのアクセスルート

2 8	坂下閑乗寺線	井波	観光	閑乗寺公園
4 1	糸谷国見線	福光	観光	イオックス
7 5	小来栖梨谷線	平	観光	クロスカントリー場
7 7	相倉仏岩線	平	世界遺産	相倉集落
8 2	上梨小原線	上平	世界遺産	菅沼集落
8 6	菅沼小瀬形線	上平	世界遺産	菅沼集落
3 0 6 5	梨谷人喰谷線	平	観光	たいらスキー場
3 6 0 9	菅沼線	上平	世界遺産	菅沼集落

B－2 橋梁・跨道橋・跨線橋

表B－2－1 緊急輸送道路（15m以上の橋梁）

区分	番号	路線名	橋梁番号	橋梁名	架設年次	河川・道路名
第3次	2	(市)高堀太美山線	8194	八田橋	1972	旅川
			8196	上桜橋	1974	山田川
			8197	上大井川橋	1973	大井川
			5043	宝生寺野陸橋	1975	旧 R304 JR 城端
第3次	2806	(市)南砺福光線	5273	立野原西陸橋	2009	市道大塚七曲線
			5274	福光市道横断橋	2008	市道荒木嫁兼線
			5275	なんぶ大橋	2009	小矢部川
第3次	79	(市)下出入谷線	2014	中川原橋	2002	川谷筋
			2015	入谷橋	2004	入谷川
第3次	80	(市)山の神線	2031	新高倉橋	1991	谷
第2次	18	(市)二日町広安線	8109	新田屋橋	2009	旅川

表B－2－2 跨道橋

区 分	番号	路線名	橋梁番号	橋梁名	架設年次	延長
旧国道304号 JR 城端	2	高堀太美山線	5043	宝生寺野陸橋	1975	212.9m
(主) 金沢井波線	2389	小又1号線	5262	小又農道橋	1978	33.6m
東海北陸自動車道	150	国広南原線	1029	立野原橋	1998	44.7m

表B－2－3 その他跨道橋（管理について今後検討すべきもの）

交差道路名	橋 梁 名	長 (m)	目 的	備 考
東海北陸自動車道	新屋跨高速道路橋	51.3	林道	
東海北陸自動車道 国道156号	高畠跨道橋	51.3	作業道（林）	
	野田跨道橋	47.9	作業道（林）	
	南原跨道橋	54.0	農道	
	ささらアーチ	14.5	観光モニュメント	
（主）金沢井波線	農道小又18号線 農道橋	36.0	農道	

B－3 トンネル

表B－3－1 トンネル

番号	地 域	管 理 番 号	トンネル名	路 線 番 号	路 線 名	設置年	延長 (m)	旧管理者
1	城端・平	1001	細尾 トンネル	3065	梨谷人喰谷線	1927	102	富山県
2	平～利賀	2003 4006	新山の神 トンネル	80	山の神線	1989	1,430	森林開発 公団
3	上平	3001	菅沼歩道 トンネル	3602	菅沼田下線	1990	123	上平村
4	上平	3002	打越隋道	3605	桂線	1983	1,413	富山県
5	福光	5001	湯谷隧道	254	蔵原湯谷線	1978	79	福光町

表B-3-2 通行止規制中トンネル

番号	地 域	管 理 番 号	トンネル名	路 線 番 号	路 線 名	設置 年	延 長 (m)	備 考
1	平・利賀	2002 4003	山の神 隋道	3862	阿別当 高草嶺線	1964	228	
2	利賀	4001	豆谷 トンネル	3812	仙野原細島線	1949	195	
3	利賀	4002	檜尾 トンネル	3826	利賀百瀬川線	1970	813	
4	利賀	4004	中の谷 トンネル	3823	利賀中の谷線	1965	194	
5	利賀	4005	第2中の谷 トンネル	3823	利賀中の谷線	1965	382	
6	福光	5002	蔵原 トンネル	2363	蔵原 トンネル線	1955	119	

B-4 スノーシェッド

表B-4 スノーシェッド

番号	地域	路線名		施設名	建設年	材質	備考
1	平	80	山の神線	新山の神 トンネル	1989	コン	緊急輸送道路
2	上平	84	西赤尾小瀬形線	漆谷1	不明	コン	代替路なし
3	上平	84	西赤尾小瀬形線	漆谷2	不明	コン	代替路なし
4	上平	3608	皆葎線	皆葎屋根 付階段	不明	アルミ	上平小通学路
5	福光	252	蔵原湯谷線	湯谷 トンネル	1978	コン	トンネル取付

B－5 スノーキーパー

表B－5 スノーキーパー

番号	地域	路線名		施設名	材質	備考
1	平	80	山の神線	山の神 1	コン	緊急輸送道路
2	平	80	山の神線	山の神 2	コン	緊急輸送道路
3	上平	3605	桂線	桂	コン	ダム連絡道

B－6 横断歩道橋

表B－6 横断歩道橋

番号	地域	路線名		施設名	材質	備考
1	福野	10	寺家高儀線	福野小前横断歩道橋	鋼	

B－7 通行止可能施設

表B－7 通行止め規制が可能な施設

番号	地域	路線名		施設名	建設年	材質	備考
1	平	77	相倉仏岩線	相倉茅保管場	不明	鋼	茅保管利用
2	平	3402	城二越線	祖山	不明	コン	除雪車置き場利用
3	福光	2363	蔵原トンネル線	蔵原トンネル	不明	鋼	通行止め
4	福光	2499	旧県道太美綱掛線	蛇谷橋	不明	鋼	旧道取り付け

道路施設維持修繕5箇年計画2023～2027(案)

施 設 名	事業概要	箇所番号	地 域	財 源	路線名	箇 所	延長(m)	計画延長 (m)	相属(m)	面積(㎡)	工 法	単価 (円/㎡)	事業費 (百万円)	R 5					R 6								
														事業費	比(54%) △(59.4%)	電立立地 (90%)	通称費 (95%)	辺電網 (95%)	単価	事業費	比(54%) △(59.4%)	電立立地 (90%)	通称費 (95%)	辺電網 (95%)	単価		
舗 装	舗装打換・オーバーレイ L=12.5km (2.5km/110百万円/年)	1-1	福野	起坡	高坂太美山線	八幡～伝安	840	840	6.0	5,040	切削オーバーレイ	7	36	0											0		
		1-2	福野	社南	高坂太美山線	年代～地野	800	800	3.0	2,400	2層打換(片側車線)	13	32	0	10	5			4		1	10	5		4	1	
		1-3	福野	起坡	川除新本江線	野尻～本江	2,000	700	6.0	4,200	切削オーバーレイ	7	30	0							0	15		14		1	
		1-4	福野	社南	三ツ屋竹林線	下古江	400	400	3.0	1,200	1層打換	8	10	0							0					0	
		1-5	福光	社南	竹林宮後線	栗崎～御治	800	800	6.0	4,800	1層打換	8	39	0	10	5			4		1	10	5		4	1	
		1-6	福光	社南	龜市野沢線	土生新	260	260	7.3	1,898	1層打換	8	16	0	8	4			3		1	8	4		3	1	
		1-7	福光	社南	高坂太美山線	荒木～小林	690	690	3.5	2,415	2層打換(片側車線)	13	32	2	6	3			2		1	6	3		2	1	
		1-8	福光	社・起	糸谷園見線	糸谷新	2,900	800	7.0	5,600	1層打換	8	45	0	25				23		2					0	
		1-9	井波	社南	井波環状線	坪野～山見	2,200	400	7.0	2,800	2層打換	13	37	2	10	5			4		1	15	8		6	1	
		1-10	井波	社南	清水町北市線	清水町～野郎原	1,650	600	7.0	4,200	1層打換	8	34	0	10	5			4		1	10	5		4	1	
		1-11	井波	社南	坂下駒乗寺線	北川	700	400	6.0	2,400	1層打換	8	20	0							0					0	
		1-12	井波	社南	南福井波城端線	山見～北市	1,500	400	8.0	3,200	1層打換	8	26	6							0					0	
		1-13	城端	社南	立野原雲台線	大坂屋～雲台	2,000	500	7.0	3,500	1層打換	8	28	0							0	7	4		2	1	
		1-14	城端	起坡	西上赤坂線ほか	城端	400	400	6.0	2,400	1層打換	8	20	0	5				4		1	5		4		1	
		1-15	城端	社南	末広千福線	金戸	600	600	6.0	3,600	1層打換	8	29	0							0						0
		1-16	井口	起坡	高谷川上中線ほか	井口	1,130	300	6.5	1,950	1層打換	8	16	1	3				2		1	3		2		1	
		1-17	平	起坡	梨谷入倉線他	梨谷	1,400	500	9.0	4,500	オーバーレイ	4	50	25	5					4	1	5			4	1	
		1-18	平	巻掛	下梨渡原線	下梨	700	300	6.0	1,800	1層打換	8	15	10	1						1	1					1
		1-19	平	電立	山の神線	高草嶺	100	100	7.0	700	1層打換	8	6	0	6		5				1						0
		1-20	上平	起坡	上梨小線	田内・小泉	700	300	6.0	1,800	1層打換	8	15	0							0						0
		1-21	上平	単独	菅沼小形線ほか	菅沼	450	200	6.0	1,200	1層打換	8	10	0	2						2	2					2
		1-22	利賀	電立	下村線	利賀村下島	600	600	5.0	3,000	1層打換	8	24	0	24		23				1						0
		1-23	利賀	電立	中村線	中村	1,537	700	5.5	3,850	オーバーレイ	5	20	0							0	10		9			1
		1-24	利賀	電立	上百瀬車山線		720	780	3.5	2,730	オーバーレイ	5	14	0							0						0
橋 梁	橋梁補修15橋/点検823橋 830百万円	2-1	全	メンテ	補修工事			15橋			補修工事		580	0	110	65		42		3	110	65		34	7	4	
		2-2	全	メンテ	市内全域25橋			1式			橋梁点検		250	0	90	53				37	40	23				17	
		3-1	全	メンテ	補修工事			5施設			施設補修		100	0	20	11		7		2	20	11		7		2	
		3-2	全	メンテ	市内全域25施設			25施設			施設点検		41	0	33	19				14	0					0	
側 溝	側溝改修 L=1.8km 60百万円	4-1	福野	社南	野尻川原住宅1号線	野尻	1,000	1,000	5.0		側溝改修	10	10	0	10	5		4		1						0	
		4-2	福野	社南	院林住宅1号線	院林	400	400	5.0		側溝改修	30	20	0						0					0		
		4-3	井波	社南	井波環状線	坪野	1,800	300	7.0		側溝改修	30	10	0	10	5		4		1					0		
		4-4	井波	社南	山見3号線	山見	1,000	180	6.0		側溝改修	20	30	10						0	10	5		4	1		
雪崩防止柵 落石防護柵 転落防止柵	雪崩防止柵 L=180m 転落防止柵 L=800m 落石防護柵 L=60m 201百万円	5-1	利賀	社南	山の神線	利賀	120	120	7.0		雪崩防止柵	80	4	12	6			5	1	16	8			7	1		
		5-2	平	社南	祖山線	祖山	60	60			落石防護柵	60	0	18	10				7	1	15	8			6	1	
		5-3	上平	社南	西赤尾小形形線	漆谷	60	60			雪崩防止柵	60	45							0						0	
		5-4	城端	社南	立野原雲台線	大坂屋～林道	800	800			ガードラール	50	0	18	10		7		1	12	6			5	1		
その他修繕	350百万円			一般財源	道路照明、大型案内看板、ガードレール修繕等			1式				350			70		15	3	52	70			25	3	42		
合 計	2,150百万円											計	2,255	105	516	211	28	129	19	129	400	160	9	120	27	84	

(単位：百万円)

路線名	箇 所	延長(m)	計画延長 (m)	R 7						R 8						R 9						R 5～R 9 計		R 5～R 9 計							
				事業費 (百万円)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	事業費 (百万円)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	事業費 (百万円)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	電圧(%) (90%)	
高尾太美山線	八雲～広安	840	840						0	18			17			1	18			17			1	36	0	0	34	0	0	2	
高尾太美山線	年代～焼野	800	800	12	6		4		2							0						0	32	16	0	12	0	0	4		
川除新本江線	野尻～本江	2,000	700	15			14									0						0	30	0	0	28	0	0	2		
三ツ原竹林線	下古江	400	400						0	5	3		1			1	5	3		1		1	10	6	0	2	0	0	2		
竹林宮後線	東島～御治	800	800	10	5		4		1							0	9	4		4		1	39	19	0	16	0	0	4		
船市野尻線	土生新	260	260						0							0						0	16	8	0	6	0	0	2		
高尾太美山線	荒木～小林	690	690	6	3		2		1	6	3		2			1	6	3		2		1	30	15	0	10	0	0	5		
糸谷国見線	糸谷新	2,900	800						0	10	5		4			1	10	5		4		1	45	10	0	31	0	0	4		
井波塩伏線	坪野～山見	2,200	400						0							0	10	5		1		4	35	18	0	11	0	0	6		
清水町北市線	清水町～野部原	1,650	600	10	5		4		1	4		3			1							0	34	15	0	15	0	0	4		
坂下親泉寺線	北川	700	400	10	5		4		1	10	5		4			1						0	20	10	0	8	0	0	2		
南坂井波城瀬線	山見～北市	1,500	400						0	10	5		4			1	10	5		4		1	20	10	0	8	0	0	2		
立野原裏谷線	大廻原～裏谷	2,000	500	7	4		2		1	7	4		2			1	7	4		2		1	28	16	0	8	0	0	4		
西上赤坂線ほか	城端	400	400	5			4		1	5		4			1							0	20	0	0	16	0	0	4		
末広千鶴線	金戸	600	600	10	5		4		1	10	5		4			1	9	4		4		1	29	14	0	12	0	0	3		
高谷川上中線ほか	井口	1,130	300	3			2		1	3		2			1	3		2				1	15	0	0	10	0	0	5		
梨谷入谷線他	梨谷	1,400	500	5				4	1	5				4		1	5				4	1	25	0	0	0	20	0	5		
下梨原線	下梨	700	300	1					1	1					1	1						1	5	0	0	0	0	0	5		
山の神線	藁平嶺	100	100						0						0							0	6	0	5	0	0	0	1		
上梨小泉線	田向・小泉	700	300	5			4		1	5				4		1	5			4		1	15	0	0	0	12	0	3		
菅沼小瀬形線ほか	菅沼	450	200	2					2	2					2	2						2	10	0	0	0	0	0	10		
下村線	利霞村下島	600	600						0						0							0	24	0	23	0	0	0	1		
中村線	中村	1,537	700	10			9		1						0							0	20	0	18	0	0	0	2		
上百崎集山線		720	780						0	7			6			1	7			6		1	14	0	12	0	0	0	2		
路面性調査		50,000	50,000	10					10							0						0	10	0	0	0	0	0	10		
補修工事		15橋		120	71		23	23		3	120	71		46		3	120	71		46		3	580	343	0	191	30	0	16		
市内全線25橋		1式		40	23				17	40	23				17	40	23				17	250	145	0	0	0	0	0	105		
補修工事		5施設		20	11		7		2	20	11			7		2	20	11			7	2	100	55	0	21	14	0	10		
市内全線25施設		25施設		0					0	0					0	8	5				3	41	24	0	0	0	0	0	17		
野尻川原住宅1号線	野尻	1,000	1,000						0						0							0	10	5	0	4	0	0	1		
院林住宅1号線	院林	400	400						0	10	5		4			1	10	5		4		1	20	10	0	8	0	0	2		
井波塩伏線	坪野	1,800	300						0						0							0	10	5	0	4	0	0	1		
山見3号線	山見	1,000	180	10	5		4		1						0							0	20	10	0	8	0	0	2		
山の神線	利霞	120	120	16	8			7	1	16	8			7	1	16	8			7	1	76	38	0	0	33	0	0	5		
相山線	相山	60	60	15	8			6	1	12	6			5	1							0	60	32	0	0	24	0	4		
西赤尾小瀬形線	藤谷	60	60						0						0	15	8			6		1	15	8	0	0	6	0	1		
立野原裏谷線	大廻原～林道	800	800	5	3		1		1	10	5		4			1	5	3		1		1	50	27	0	18	0	0	5		
道路照明、大型案内看板、カードレーン修繕等		1式		70		25	3		42	70		25	3		42	70		25	3		42	350	0	0	115	15	0	220			
				417	162	9	104	47	0	95	406	159	6	126	30	0	85	411	167	6	117	31	0	90	2,150	859	58	596	154	0	483